

新見高校再編の課題と取組

1 岡山県教委発表

★再編整備基準 ※次の基準による計画的・段階的な再編整備

- ① 第1学年の生徒数が100人を下回る状況が、平成35(2023)年度以降2年続いた場合には、再編整備の対象とする。
- ② 第1学年の生徒数が80人を下回る状況が、平成35(2023)年度以降2年続いた場合には、翌年度の生徒募集を停止する。

★再編延期

地域から県立高校がなくなると、▼地元の中学生の進路選択や、▼自治体の移住政策などに大きな影響を及ぼすとして、県議会から配慮を求める要望が出ていた。

県教委は、市や町に県立高校が1校しかない場合、令和10年度(2028年度)までは、その高校の再編を一時保留することを決定。現小学3年生から影響。

2 統廃合があった場合の予想される課題



★市内での小中高大の「学びの連続性」が途絶える。

★JR 駅が遠い家庭からの課題として

下宿や寮・遠距離通学費・起床帰宅時刻問題・県南流出・過疎化・企業等の担い手減少

3 取り組みとして (県教委からは、新見市のこれからの取り組みに期待したい。)

★我新見市長、正村教育長が鍵本県教育長と意見交換 (R5.4)

① 基準の見直しを検討していただきたい。

② 学校運営の向上を目指す学校運営協議会の設置。また、ゼロハンカーやドローン等を活用した魅力ある学校づくりを推進してほしい。(高校へも)

※今後も意見交換の場を持つ。

★新見市民に現状を知ってもらう。

・学校で、PTA 集会や職員会議、学年支会等で周知 ・各種団体へ



★新見高校の魅力化推進

・より興味の湧く学習活動 ・取り組み状況の発信 ・OSの充実化

・高校や大学との連携活動 ・市内通学費用半額負担 等

学校教育課 小中連携担当 梶川